

オクトリカブト

学名：*Aconitum japonicum* Thun-berg 科名：キンポウゲ科



秋頃に青紫色の独特な形の花を咲かせるオクトリカブト。トリカブトという名前の由来は舞楽（ぶがく）で用いる鳥兜に花の形が似ているからと言われている。トリカブトには多数の種がありますが、基本的にはどの種も猛毒を持っています。鮮やかな花を咲かせるため思わず近づいてしまうかもしれませんが、植物全体に猛毒を持っているので、もしトリカブトに触れた場合はその手で目や口に触れずにしっかりと手を洗うこと、また、怪我をしている手では触れないようにしましょう。

オクトリカブトに含まれる成分はアコニチンという猛毒で、オクトリカブトは生薬名では附子（ブシ）と呼ばれます。強い毒を持っているためそのまま生薬に用いることはなく、加工により減毒します。

附子の成分であるアコニチンやアコニチンの代謝産物は体の冷えや痛みに対して漢方薬に加えられて用いられます。漢方薬には副作用がないと思われている方もいらっしゃるかもしれませんが、実際は副作用がゼロではありません。特に附子は生薬の中でも副作用が現れやすく、痺れや熱感が現れる場合があります。

| | |
|------|---|
| 生薬名 | 附子（ブシ） 局方生薬 |
| 薬用部位 | 塊根 |
| 薬効 | 鎮痛、新陳代謝促進、利尿、抗炎症、血管拡張、強心作用 |
| 用途 | 漢方薬に配剤されることが多い。 牛車腎気丸（ごしゃじんきがん）、 桂枝加朮附湯（けいしかじゅつぶとう） |



ヒロハセネガ

学名：*Polygala senega* Linné ver. *latifolia* Torrey et Gray 科名：ヒメハギ科



ヒロハセネガは北アメリカに自生する多年生草本です。生薬名であるセネガは北アメリカの先住民であるセネカ族に由来し、根をガラガラヘビに噛まれた際の解毒薬として利用していたことから名づけられました。そのため英名では *Senega Snake-root* と呼ばれています。のちに去痰に有効であることが分かり、各国の薬局方に採用されるようになりました。生薬としてのセネガは日本薬局方の初版から記載されています。現在ではセネガを用いた処方として、セネガ末、セネガシロップ、セネガ・キキョウ水が収載されています。日本では明治時代から栽培されました。現在は国産品で需要を満たしており、日本産セネガの名前でヨーロッパにも輸出されています。漢方薬には配合されません。

ヒロハセネガの根は鎮咳、去痰（きよたん）薬として使用されます。「セネガサポニン」の粘膜刺激作用が気道の分泌を促進することで、強い去痰作用や鎮咳作用を示すとされています。また「サポニン」は水に加えて振りまぜると、石けんのように泡立つ性質（起泡性）があります。

生薬名 セネガ 局方生薬

薬用部位 根

薬効 鎮咳、去痰

用途 気管支炎、肺炎時の気道内の去痰
セネガ末、セネガシロップ、セネガ・キキョウ水に配剤される